

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700280		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト白金 (2階)		
所在地	名古屋市昭和区白金1-20-3		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果市町村受理日	令和2年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokenisaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouin_you_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2390700280-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和2年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人、一人の生活習慣や、好みを把握して、居心地の良い生活が日々送ることができるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和元年10月に経営母体が変わり事業所番号も新たにソラスト白金として再出発をしている。主要幹線道路から一筋中に入った住宅や商店が立ち並ぶ一角に事業所が位置し、児童館や保育園が隣接し、近くに公園や小学校、お寺や神社、町工場もあり昔の風情が感じられる。木造2階建ての趣のある事業所は開設当初から8年目を迎え、新たなるスタートとして環境の整備や整頓をし、明るく清潔で落ち着いた環境に生まれ変わっている。企業理念『自らも相手も「元気」に』を基に、職員で日々のケアにつ考え気持ちを合わせ、入居者に沿った支援を心がけていくように努めている。入居者の「今」を大切に、日々の家事仕事をしたり、力作のパッチワークや編み物の作品を飾ったり、お雛様と一緒に飾って入居者の記憶が蘇ってくるような会話や環境を整えるように努力している。また、中学生の福祉体験の場の提供や保育園児との歌や遊びの交流をしたり、節分の豆まきは子どもにとっても入居者にとってもワクワクする恒例の行事となっている。落ち着いた雰囲気の間で、皆とゲームをしたり、気の合う同士でお喋りしたりテレビを見てのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は常に業務の把握をし、改善すべき点を指摘し、事業所の理念を職員とともに、利用者一人一人、心豊かに過ごせるように支援する	企業理念はカードに記載され職員は常に携帯している。朝礼時や日常のケアの中で「元気」の理念に基づく対応が意識できるよう話しをしている。職員一人ひとりが入居者に寄り添い、笑顔で感謝の気持ちを持って接するよう努力をし、行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に心がけているが、職員の意識に差がみられる。	企業理念がとても基本的であるがゆえに目標の選択肢が多い。フロア会議や職員会議などで定期的に理念に基づく具体的な目標について話し合う機会を持ち、目標を明確に示して職員相互に気づきを促しながら理念を振り返り、目標を見失わないように、共有を深め実践に結びつくことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事を行う時、地域に働きかける、また地域からの行事参加の働きかけがあり、交流している	町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。管理者は、地区の一員として町内会の役員会に出席し、地区の祭礼や敬老会、保育園の行事や防災訓練などに参加している。中学生の福祉体験を受け入れ学習の場を提供している。毎年恒例の節分行事には、保育園児を招待して交流を深めている。ボランティアや地域住民が訪れやすい雰囲気づくりに努め入居者との交流を深めるよう努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に地域の方を招待したり地域の保育園、小学校など学校行事など参加して交流行っている。近所の喫茶店へ出かけ対外的にも施設の生活や、利用者の様子をアピールしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に施設の評価をしていただき改善すべき点を常に考えている	入居者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て実施している。入居者の活動や運営状況、事故などの報告や、出席者との情報の交換をしている。提案等はその場で検討したり、職員会議などで協議し運営に活かしている。参加できなかった家族には、ブログや毎月の通信、年1回の家族会で報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上、疑問に思ったことや、わからないことは、名古屋市町村に連絡、相談している	行政担当窓口には介護保険更新手続きや申請の代行業務、事故報告やサービスの取り組みなどを伝え、情報交換をしながら良好な協力関係を築いている。職員は、主催の研修会にも参加してサービス向上へ繋げるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修委員会を行い、身体拘束の理解を深めるようにしている	2か月に1回研修委員会を開催し身体拘束のマニュアルを通して意識を高め、束縛感のない環境づくりに努めている。「禁止や指示」など不適切な言葉がけには、職員相互で言葉遣いのチェックをしながら意識の向上を図っている。日中玄関は開錠し、職員の見守りや声掛けにより、拘束感のない自由な生活の提供に心掛けている。職員は法人内の研修に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、利用者の様子を把握して、声掛け接遇に気を配る。玄関に虐待相談の法人相談窓口、名古屋市虐待センター、昭和区役所等の電話番号掲示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常自立生活支援事業など、研修会などを行い理解を深め、利用者の立場になって考えられるようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、個人情報の取り扱い等の説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や、電話連絡入れ、現在の状態を報告している	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは訪問時や運営推進会議、家族会などで意見や要望を聞きケアや業務改善に役立てている。入居者の日常の様子や行事の写真などが入った「白金通信」を毎月発行して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議を毎月おこない、職員と情報を共有し利用者がよりよく生活できるよう支援している	日常の業務の中や毎朝の申し送り時、フロア会議や全体会議などでは意見が述べ易い環境作りをしている。人事考課時に個人面談を行い、新たな目標とやりがい、業務の振り返りや勤務の希望などを聴く機会を設け業務の改善や処遇に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、意欲を持って働き甲斐があるように職場環境を整えられるよう努める		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修や、勉強会等を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、勉強会等、定期的に参加して、交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談での情報収集や、家族との連携で本人の要望など理解する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活の様子を通信で家族に報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からのサマリーや本人面談で、健康状態や生活、嗜好など把握する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	余暇活動や、外出などをとおして、共に楽しく過ごせる時間を共有して信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡をとり、食事介助など職員と一緒に手伝いしたり、気分転換のため、外食、外出、喫茶店、旅行等に行かれる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物や、家具、好きなものや、今までの、生活スタイル等継続して生活できるよう支援している	これまでの生活歴などを聴取して大切にしてきた人や場所、物事が継続できる支援を目指している。パッチワークや編み物の作品を飾ったり、お雛様と一緒に飾って入居者の記憶が蘇ってくるような会話や環境を整えるように努力している。家族の協力を得て外食やドライブなど、その時々懐かしみなどの関係性を継続している。また、近くの喫茶店や買い物などは新しい馴染みの場や人との繋がりとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流の橋渡しを行えるよう、コミュニケーションをとり、楽しく過ごせるように支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、相談に応じている、入居先とも支援のため必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活を大切にして、施設での生活を充実できるようにする	日常の入居者との関わりの中で一人ひとりに寄り添ってその方の思いを聞いたり、表情などからくみ取ったりしている。入浴時や夜間リビングなどで話したことを、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方には、寄り添ってタイミングを見計らって意向を判断したり、家族と情報を共有し一緒に支えていく努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や好きなこと、習い事など把握して、生活に反映できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	もてる能力を維持、向上できるように努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の様子観察して、コミュニケーションをとりながら、希望を叶えられるようにする	外出記録や介護日誌を参考に看護師のアドバイスを受けながら計画作成担当者と職員で話し合い検討して、短期目標は3か月に1回、長期目標は6か月に1回介護計画の見直ししている。その間に必要に応じて家族も含め、モニタリングを行っている。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。どの職員も記録内容を共有し、入居者の状態を把握して同じケアができるように心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の記録を職員間で常時、共有できるようにして、その都度見直し個別に対応できるようにする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望をつねに集めニーズを見つけ出す		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、敬老会、小学校、児童館等の地域行事に参加して交流している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院、受診の時は紹介状を書いてもらい協力病院と連携して対応している	入居時にかかりつけ医か提携医の希望を聞いているが提携医に変更の方が多い。内科は月2回、眼科は2か月に1回の往診が受けられる。歯科は週1回歯科医と歯科衛生士が交替で往診と口腔ケアが行われている。訪問看護師は毎週来訪し爪切りや健康管理に努めている。身体状況に変化があった場合や緊急時は、24時間体制で提携医や看護師による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。受診に関わる情報や取り扱い、職員間で確認しながらケアしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、週1回受信、指示、相談に対応してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中、定期的に連絡入れて状態確認行っている、協力機関と連携、相談など行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針作成、説明同意書作成、連携施設と、協力体制をとる	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は早めに家族に報告し、状況を説明している。医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者の状態に合わせてその都度、病院への受診や他の施設の紹介など最善の援助ができるよう努めている。今後、家族の希望や入居者の状態を考慮しながら看取りも行う方向にあり、看取りの研修も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、AED研修実施、緊急時マニュアルを作成周知徹底する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人による火災、水害時のマニュアル、防火設備火災報知器等の点検、地域の消防署による消火活動実施する	年2回消防署員立会いの下、夜間を想定した避難訓練を実施し、初期消火訓練や避難誘導、避難経路の確認をしている。消防署員から避難場所の指導や助言を受け、より安全に避難誘導ができるよう話し合いを重ねている。地域連携については今後の課題となっているが、向かいの住民が連絡や通報等の担い手となっている。備蓄品は1週間分の水や食料等が用意され、リストにより管理している。AEDの指導も受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意をもって節度ある声掛けしている。全室、個室、入浴は個別対応している	人生の先輩者として人格や誇り、尊厳などについて確認し合い、つい礼を欠く言葉遣いになっていないか、また、入居者の行動に対し否定的になっていないかなどケアの振り返りをしながら職員同士でチェックし合って支援ができるよう努力している。個々の生活スタイルを守るため入居者の呼び名を決め統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や、おやつ、食事の選択など、または、レクリエーション等で、好きな物や、塗り絵など、好きな色など選んで自己決定を大切にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や、体の状態など、よく観察して、本人の意思を尊重できるようにしている。買い物など行き支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や、おやつ、食事の選択など、自己決定を大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもと違う雰囲気ですべてを摂ることができるようバイキングや、焼きそば、お寿司など一緒に作って頂き、片付けをしている	食材は業者から届けられ、栄養バランスの取れた献立表に基づき季節感のある食事や今まで慣れ親しんできた家庭料理を基本に毎食手作りで提供している。事前準備や後片付けはその人の能力に合わせて職員と一緒にやっている。おやつ作りでは、わらび餅やおやき、お誕生日ケーキなどを手作りで楽しみ、職員も一緒に食卓を囲み楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量記録して、個別に、不足している方には、栄養補助食飲料などご提供させていただきようになっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、歯磨き声掛けし行っている、歯科衛生士が、週1回口腔ケア実施している。ポリドントによる入れ歯消毒して衛生管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でできる能力の維持向上のため、必要以上に紙パンツ使用せず、トイレ誘導で排泄できるようにする	座位での排泄支援に心がけている。排泄チェック表を参考に一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、仕草や表情なども見逃さないよう支援をしていくように努めている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りの支援を行っている。居室にポータブルを持ち込み周りに気遣いせず、一人で安心して用を足している方もいる。	利用頻度の多い居間兼食堂に面したトイレの扉がなく2重のカーテンで仕切っているが音や匂いが気になる。プライバシーの尊厳から誰もが、周りを気にせず安心して用が足せる工夫や配慮を願いたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状態把握、便秘薬に頼らず、水分補給や、牛乳など、個々にあった飲食物など提供して排泄促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分が向かない時は、無理に入浴していただくことはなく、気持ちを尊重して、季節に合った入浴剤をいれたり、ゆず湯、しょうぶ湯など行う	入浴は一人ひとりの体調を考慮しながら週に2回を目安に午前と午後で入浴支援をしている。状態によっては、清拭やシャワー、足浴など臨機応変に対応している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って入浴できるよう支援をしている。湯の清潔や冬季のヒートショックに配慮し、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯を楽しんだり、入浴剤を利用したりしてゆっくりと入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に趣味趣向把握して、対応している、本人の希望時は、休息したり、昼寝など希望される状態の時は休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服ミスが発生しないように、セットから、服薬まで、三人確認する、他職員に、名前伝え担当が内服行う。調剤薬局と連携、症状適時伝え、症状把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事について、食器吹き、洗濯物干す手伝いや、洗濯ものたたみ等お手伝いして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い時は、施設近所、公園、コンビニなど戸外に出られるよう支援している、外出れくも積極的にできるようにしている	公園や児童館、幼稚園や小学校、寺社が近くにあり、安全で気軽に散歩に出掛けられる環境にある。外出レクでは、四季折々の移ろいや風情を感じながら、動物園や水族館などに出掛けている。玄関先の花壇や畑で、四季の花や野菜を育てながら、水やりや収穫などを通して外気に触れ、季節を感じるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は施設で、お預かりしていない、本人が、家族からもらったもので、買い物に行きたい場合は、同行し支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が、本人に携帯もたせ、毎日連絡取り合っている場合は操作したり、手紙のやり取りなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備、整理整頓、清潔にして、換気など行い居心地良く過ごせるようにしている、	居間は、テラスの掃き出し窓から採光が入り明るく風通しが良い。対面式のキッチンから入居者の動きや気配がよく見渡せる。食堂と居間はワンフロアで開放感があり、整理整頓され、家庭的な雰囲気の共有スペースになっている。季節に応じた作品や行事の写真が飾られ会話のきっかけにしている。居間では、懐かしい歌や体操、ゲームなどに参加して楽しんだり、テレビを見たりして思い思いにのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士など、フロアの席など、工夫して、居心地良く過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が気に入って、使い続けているものや、こだわりのあるものなど取り入れて気分よく生活できるようにしている	居室入り口には毎月季節の作品を飾っている。室内には、使い慣れた筆筒やテレビなど馴染みのものを持ち込み、安心できるスペースや環境作りをしている。今までに作ったパッチワークの作品や写真を飾り、ホットカーペットや畳を敷いて自宅と変わらない生活ができるように援助をしている。職員と一緒に掃除をして清潔の保持と安全に配慮して心地よい生活空間作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるように環境整備を行い、壁にレクリエーションに参加した時の写真や、トイレの方向や、洗面台名前添付、自分の物がわかり口腔ケアしやすいようにしている。カレンダー等掲示して季節がわかるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700280		
法人名	株式会社ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラスト白金 (1階)		
所在地	名古屋市昭和区白金1-20-3		
自己評価作成日	令和2年1月14日	評価結果市町村受理日	令和2年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgoken.saku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouin_you_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2390700280-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和2年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人、一人の生活習慣や、好みを把握して、居心地の良い生活が日々送ることができるよう支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和元年10月に経営母体が変わり事業所番号も新たにソラスト白金として再出発をしている。主要幹線道路から一筋中に入った住宅や商店が立ち並ぶ一角に事業所が位置し、児童館や保育園が隣接し、近くに公園や小学校、お寺や神社、町工場もあり昔の風情が感じられる。木造2階建ての趣のある事業所は開設当初から8年目を迎え、新たなスタートとして環境の整備や整頓をし、明るく清潔で落ち着いた環境に生まれ変わっている。企業理念『自らも相手も「元気」に』を基に、職員で日々のケアにつ考え気持ちを合わせ、入居者に沿った支援を心がけていくように努めている。入居者の「今」を大切に、日々の家事仕事をしたり、力作のパッチワークや編み物の作品を飾ったり、お雛様と一緒に飾って入居者の記憶が蘇ってくるような会話や環境を整えるように努力している。また、中学生の福祉体験の場の提供や保育園児との歌や遊びの交流をしたり、節分の豆まきは子どもにとっても入居者にとってもワクワクする恒例の行事となっている。落ち着いた雰囲気の間で、皆とゲームをしたり、気の合う同士でお喋りしたりテレビを見てのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は常に業務の把握をし、改善すべき点を指摘し、事業所の理念を職員とともに、利用者一人一人、心豊かに過ごせるように支援する		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事を行う時、地域に働きかける、また地域からの行事参加の働きかけがあり、交流している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に地域の方を招待したり地域の保育園、小学校など学校行事など参加して交流行っている。近所の喫茶店へ出かけ対外的にも施設の生活や、利用者の様子をアピールしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に施設の評価をしていただき改善すべき点を常に考えている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上、疑問に思ったことや、わからないことは、名古屋市町村に連絡、相談している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修委員会を行い、身体拘束の理解を深めるようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、利用者の様子を把握して、声掛け接遇に気を配る。玄関に虐待相談の法人相談窓口、名古屋市虐待センター、昭和区役所等の電話番号掲示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常自立生活支援事業など、研修会など行い理解を深め、利用者の立場になって考えられるようにする		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、個人情報の取り扱い等の説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や、電話連絡入れ、現在の状態を報告している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議を毎月おこない、職員と情報を共有し利用者がよりよく生活できるよう支援している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、意欲を持って働き甲斐があるように職場環境を整えられるよう努める		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部の研修や、勉強会等を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、勉強会等、定期的に参加して、交流を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人面談での情報収集や、家族との連携で本人の要望など理解する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活の様子を通信で家族に報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院からのサマリーや本人面談で、健康状態や生活、嗜好など把握する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	余暇活動や、外出などをとおして、共に楽しく過ごせる時間を共有して信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡をとり、食事介助など職員と一緒にお手伝いしたり、気分転換のため、外食、外出、喫茶店、旅行等に行かれる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの物や、家具、好きなものや、今までの、生活スタイル等継続して生活できるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流の橋渡しを行えるよう、コミュニケーションをとり、楽しく過ごせるように支援する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、相談に応じている、入居先とも支援のため必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活を大切にして、施設での生活を充実できるようにする		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や好きなこと、習い事など把握して、生活に反映できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	もてる能力を維持、向上できるように努める		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の様子観察して、コミュニケーションをとりながら、希望を叶えられるようにする		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の記録を職員間で常時、共有できるようにして、その都度見直し個別に対応できるようにする		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の要望をつねに集めニーズを見つけ出す		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、敬老会、小学校、児童館等の地域行事に参加して交流している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院、受診の時は紹介状を書いてもらい協力病院と連携して対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、週1回受信、指示、相談に対応してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、定期的に連絡入れて状態確認を行っている、協力機関と連携、相談など行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針作成、説明同意書作成、連携施設と、協力体制をとる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生、ADL研修実施、緊急時マニュアルを作成周知徹底する		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人による火災、水害時のマニュアル、防火設備火災報知器等の点検、地域の消防書による消火活動実施する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、敬意をもって節度ある声掛けしている。全室、個室、入浴は個別対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服の選択や、おやつ、食事の選択など、または、レクリエーション等で、好きな物や、塗り絵など、好きな色など選んで自己決定を大切にする		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の気分や、体の状態など、よく観察して、本人の意思を尊重できるようにしている。買い物など行き支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や、おやつ、食事の選択など、自己決定を大切にする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	いつもと違う雰囲気ですぐに食事を摂ることができるようバイキングや、焼きそば、お寿司など一緒に作って頂き、片付けをしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量記録して、個別に、不足している方には、栄養補助食飲料などとしていただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、歯磨き声掛けし行っている、歯科衛生士が、週1回口腔ケア実施している。ポリドントによる入れ歯消毒して衛生管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分でできる能力の維持向上のため、必要以上に紙パンツ使用せず、トイレ誘導で排泄できるようにする		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状態把握、便秘薬に頼らず、水分補給や、牛乳など、個々にあった飲食物など提供して排泄促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分が向かない時は、無理に入浴していただくことはなく、気持ちを尊重して、季節に合った入浴剤をいれたり、ゆず湯、しょうぶ湯など行う		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に趣味趣向把握して、対応している、本人の希望時は、休息したり、昼寝など希望される状態の時は休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服ミスが発生しないように、セットから、服薬まで、三人確認する、他職員に、名前伝え担当が内服行う。調剤薬局と連携、症状適時伝え、症状把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事について、食器吹き、洗濯物干す手伝いや、洗濯ものたたみ等お手伝いして頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い時は、施設近所、公園、コンビニなど戸外に出られるよう支援している、外出しれども積極的にできるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は施設で、お預かりしていない、本人が、家族からもらったもので、買い物に行きたい場合は、同行し支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が、本人に携帯もたせ、毎日連絡取り合ってる場合は操作したり、手紙のやり取りなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備、整理整頓、清潔にして、換気など行い居心地良く過ごせるようにしている、		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士など、フロアの席など、工夫して、居心地良く過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が気に入り、使い続けているものや、こだわりのあるものなど取り入れて気分よく生活できるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるように環境整備行い、壁にレクリエーションに参加した時の写真や、トイレの方向や、洗面台名前添付、自分の物がわかり口腔ケアしやすいようにしている。カレンダー等掲示して季節がわかるようにしている		